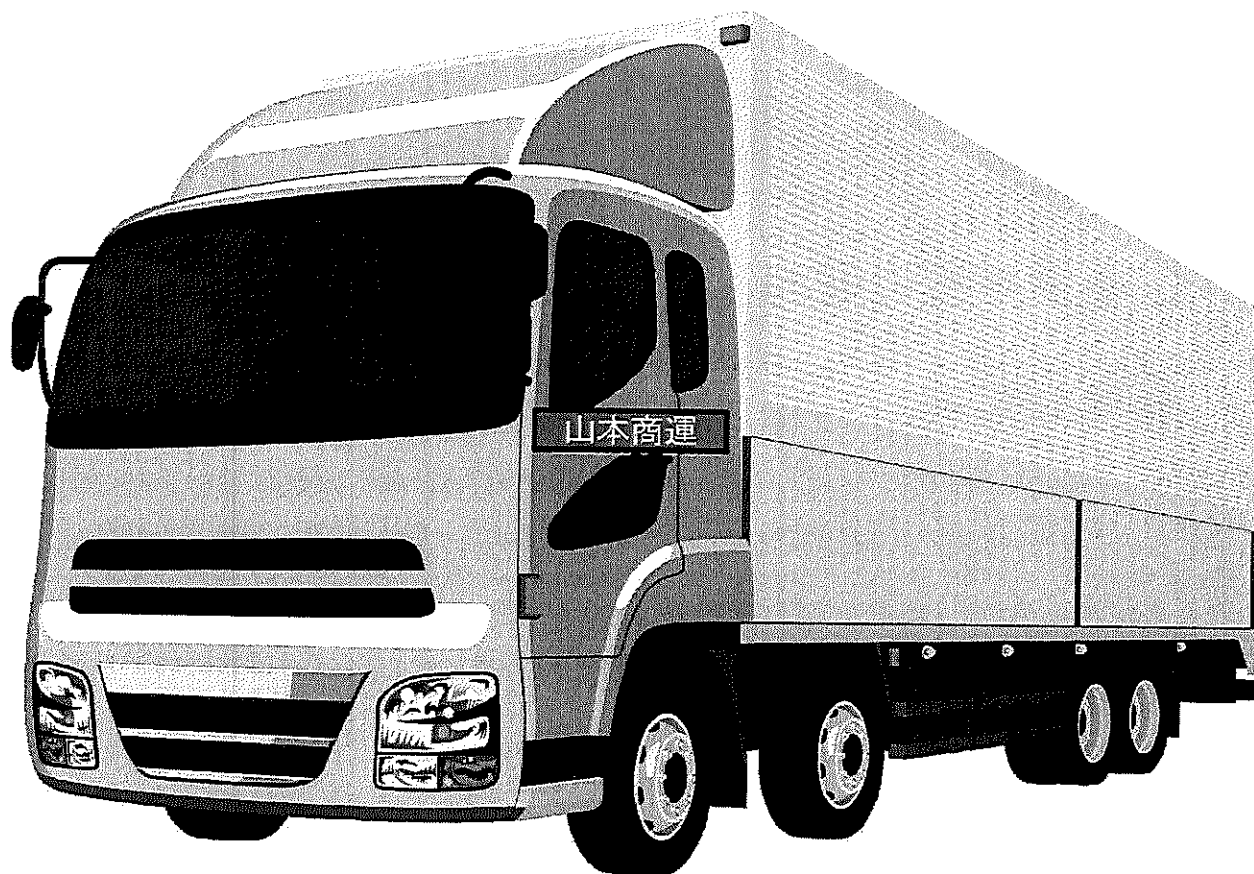


山本商運株式会社 様

安全運転講習会



有限会社やまと保険事務所
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2020年11月14日(土)

目次

1.DVD視聴

冬道運転あなたは大丈夫？

～冬道事故防止のポイント～

2. 研修

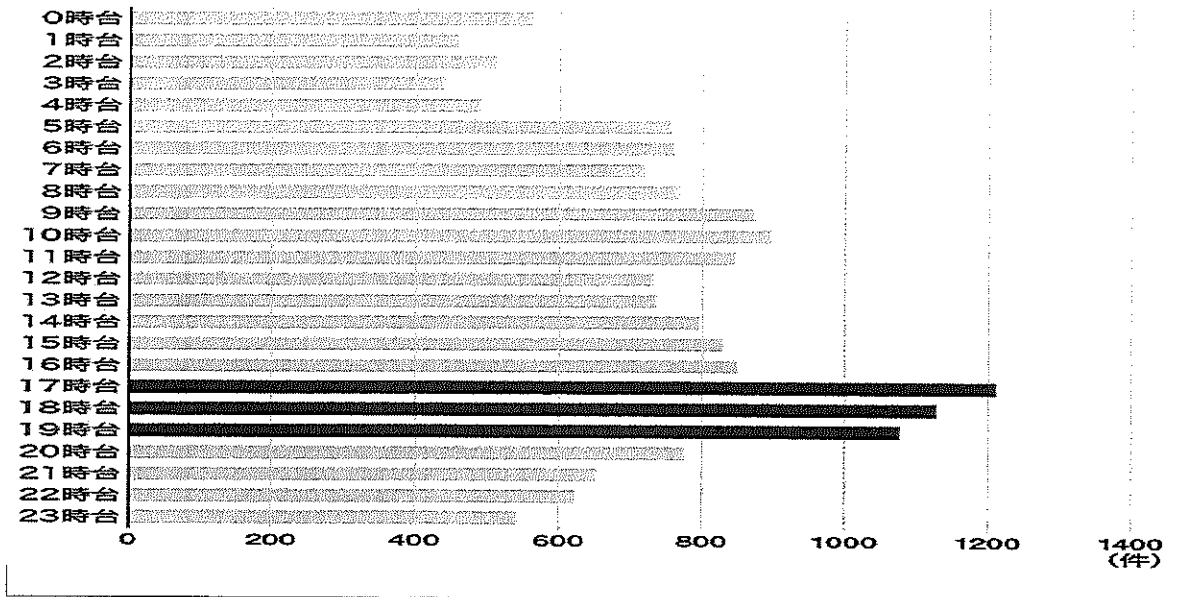
①冬期事故の傾向

②事故事例

冬期事故の傾向

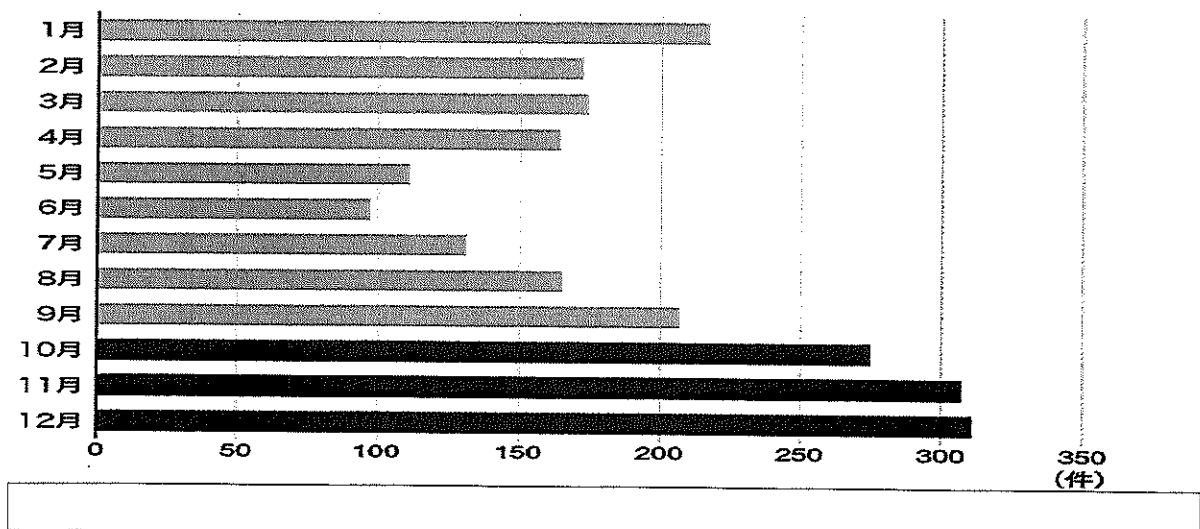
日没前後1時間(「薄暮時間帯」)に死亡事故が多く発生。冬期は日没が早いため、早めの準備(意識)が必要。

時間帯別の死亡事故件数(2015~19年)



10~12月は薄暮時の死亡事故件数が顕著。特に日没後1時間の横断中歩行者の死亡事故件数が多い。

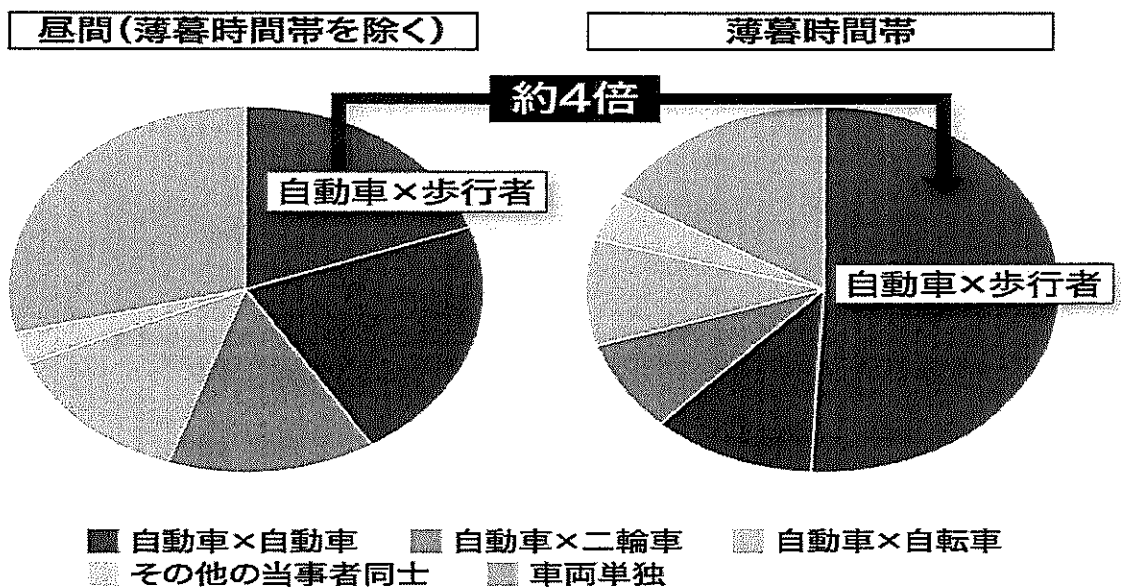
薄暮時間帯の月別死亡事故件数(2015~19年)



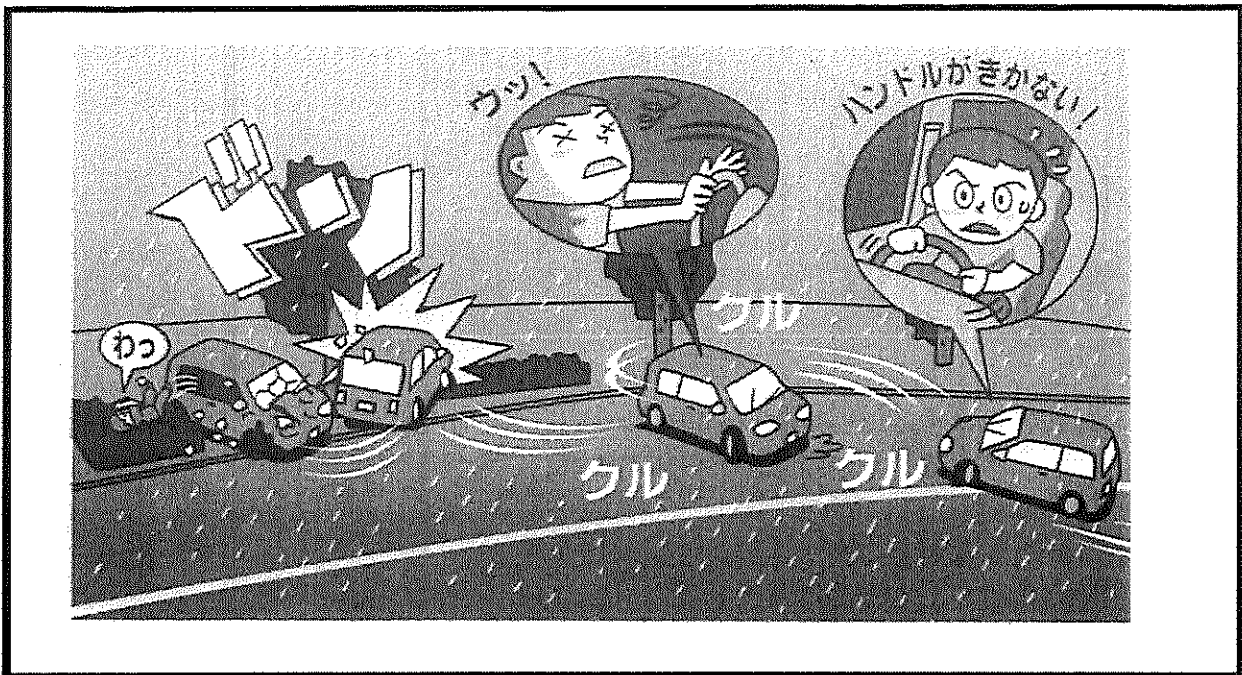
冬期事故の傾向

薄暮時における自動車と歩行者の事故件数は、昼間の約4倍に達する。

当事者別の時間当たり死亡事故件数(2015～19年)



冬道での事故について①



事故類型：単独事故
発生日時：雨天 夜
当事者A：軽貨物車 30歳代 男性

■ 事故の概要

Aは制限速度50kmの緩やかな左カーブを時速約80kmで走行していたところ、下り勾配から緩やかな登りに差しかかる直前で、ハンドル操作が不能になりました。そのため対向車線にはみ出し、さらにスピンしながら対向車線側の縁石に乗り上げた後、立木に左側面から衝突しました。

シートベルト非着用だったAは、衝撃により後部ドアの窓から車外に放り出され、道路脇の植え込みに転落しました。

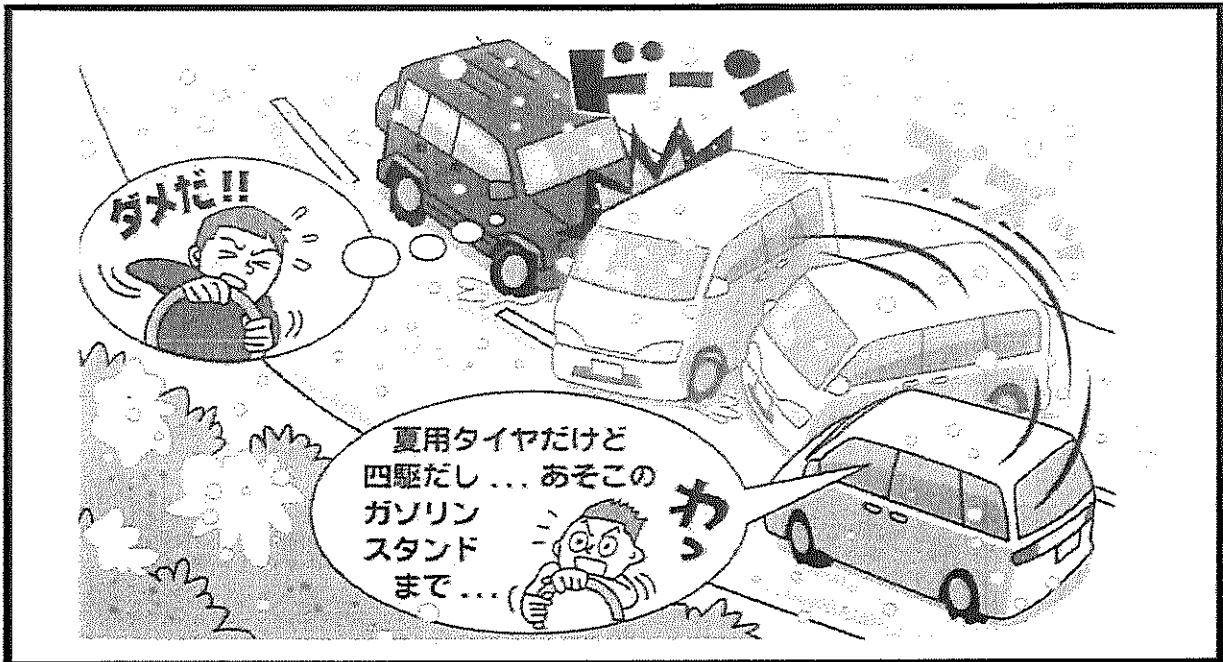
■ 事故から学ぶ

強い雨で水たまりなどもあり、滑りやすい状況にありながら、急いでいたため制限速度を約30kmも超えた速度で走行していました。また、この車両のタイヤは残溝が少なくなっていた為、ハイドロプレーニング減少を起こしたものと推測されます。

Aはタイヤの溝が少なくなっていることも、制限速度をオーバーしていることも知っていましたが、急いでいるという理由で危険運転をしています。

さらにシートベルト非着用だったため、衝突の衝撃により車室内の方々に衝突しながら車外に放り出されてしまいました。シートベルトをしっかりと着用していれば車外放出されることはなかったでしょう。

冬道での事故について②



事故類型：正面衝突

発生日時：雪

当事者A：普通乗用車（4WD）50歳代 男性 ノーマルタイヤ装備

当事者B：普通乗用車（4WD）年齢不明 男性 スタッドレスタイヤ装備

■ 事故の概要

Aは片側一車線のゆるい右カーブの道路を時速約35kmで中央線寄りで走行しています。道路に雪が積もってきたが、A車は4WDなので近距離であればノーマルタイヤのまま凌げると思い、近くのカソリンスタンドまでチェーンを装備せずに向かいました。

対向車線にB車を発見したので、すれ違いに備えて左側に寄って減速しようとブレーキをかけたところ、突然後部が右に流れ始めました。体制を立て直そうとハンドルを右に切ったがそのまま対向車線に進入しつつ、B車と衝突しました。

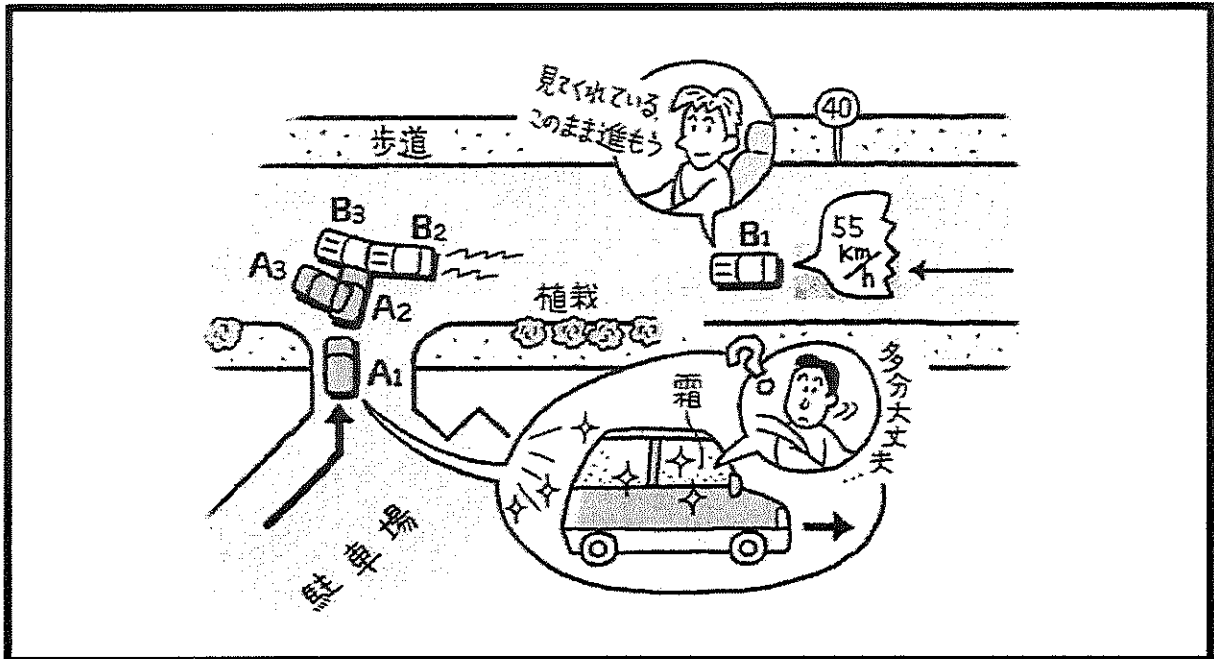
一方、BはA車がスリップして横になり中央線を越えて自車に向かってきたので、急ブレーキをかけながら、左にハンドルを切って回避しようとしたが、左側には縁石があるためそれ以上回避できず、A車と衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aは自車が4WDなので性能を過信していました。ぬかるみなどの悪路で4WDの有利性を過度に期待している人が多いですが、雪道を走行するときは万全ではないことは明らかです。

また、時速約35kmという速度も不適切でした。雪道や凍結した路面で一度滑り出した車はブレーキをかけても効かず、「ぶつかる」か「勢いがなくなる」まで止まりません。雪道を走行するためには、タイヤチェーンあるいはスノータイヤ等の滑り止めの装置を必ず装着して、良い条件で運転しているときの何倍もの注意を払って安全運転をするようにしましょう。

冬道での事故について③



事故類型：衝突
発生日時：寒い日の朝
当事者A：軽貨物車 30歳代 男性
当事者B：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは早く職場に行きたかったので、車に乗り込むとすぐに発進させました。Aは自宅のある敷地から左折して片側一車線の道路に入ろうと一旦停止しました。交差する道路の左右の安全を確認しようとしたのですが、窓ガラスには霜がついている上に朝日が低い角度から差し込んできてまぶしかったので、あまりよく確認ができませんでした。それでもAは大丈夫だろうと車を発進させたところ、右から走行してきたB車と衝突しました。

Bは通勤のため、規制速度40kmの道路を約15kmオーバーの速度で走行していました。この道路は見通しが良いので、一旦停止したAが自分を見ないはずはないという確信からそのまま走行を続けました。突然A車が道路に進入してきたので、あわてて急ブレーキをかけたが間に合わず衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

野外に駐車した場合、気温が低いとフロントガラスや窓ガラスが結氷として曇りガラス状態になったり、雪で完全に覆われる場合があります。少しでも早く出発したいという気持ちもわかりますが、安全のために視界を確保することはとても大切なことです。霜を削り落として視界を確保するのが最善ですが、緊急避難的には寒くとも窓を開けて左右の確認をするという方法もありました。

また、Bが速度超過をしていたことも事故を避けられなかった要因のひとつです。車を運転しているときは「見えているだろう」という予測より「見えていないかもしれない」という考えをもち、車両を発見したら速度を落とすなどをして安全運転を心がけましょう。